

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 環境科学科

職階 准教授

氏名 中野和彦

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

2025年度は、講義科目を10科目、実習・演習科目を3科目の計13科目を担当した。また、下記「卒業論文」で6名の卒論生の研究指導、「科学技術英語」で3年生7名の英語教育を行ったほか、大学院博士前期課程の学生1名の研究指導を行った。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
地球環境科学	環境科学科	必修	1	70
化学	獣医保健看護学科	必修	1	70
分析化学	環境科学科	必修	2	70
機器分析学・同実習	環境科学科	必修	2	70
リサーチローテーション	環境科学科	必修	2	70
フレッシュャーズセミナー	環境科学科	必修	1	70
無機化学	環境科学科	選択	2	15
環境計量分析学	環境科学科	必修	3	70
環境修復技術論	環境科学科	選択	3	40
環境計量分析学実習	環境科学科	必修	3	70
環境計量学・同演習	環境科学科	選択	4	1
科学者研究者論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	15
生活環境科学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	4

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

生物学・生命科学分野の志向の高い環境科学科の学生に対して、「環境科学における化学の役割を分かってもらい、社会に出た際に役立たせてほしい」という教育理念の下、学生に対して、分かりやすい授業を実施することを心がけている。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

本学の学生は、生物・生命科学分野の志向が高い一方で、化学に苦手意識を持つ学生の割合が多い。このため、化学（獣医保健看護学科）や分析化学（環境科学科）の化学系科目では、「化学の楽しさを理解させ、化学の基礎力や知識を身に付けさせること」、「化学における数的感覚を身に付けさせること」の2点を念頭に置いた授業を行い、環境科学における化学の役割を分かってもらうことを意識している。また、講義を行うにあたってのアプローチとして「100%理解してもらうよう、最大限の努力は行うが、学生は、講義内容の3割を理解してくれば十分」と考え、学生に過度の負荷をかけないよう心がけている。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

特に無し

### (2) ICTの教育活用

有

学生が講義後もオンデマンドで講義内容を復習できるよう、授業動画を毎回録画し、授業当日には学内のLMSに公開している。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義や実習においては、分かりやすく、視認性の良い授業スライドの作成に努めた。授業スライドは、一枚のスライドに情報を詰め込み過ぎないことを意識して作成した。実習科目では、学生が実習内容をイメージしやすくなるよう、事前に実習の手技を動画で撮影して、その動画を視聴させた。また、授業や実習では、言葉はワンフレーズで、言い切り型にすることを心掛けた。

### (2) 学生の理解度の把握

A

「化学」、「分析化学」、「無機化学」及び「環境計量分析学」の講義では、毎回、講義の最後に小テストを課して、学生の理解度の向上に努めた。また「化学」では、中間試験を行い、基準点に到達しなかった学生には、教育推進センターと連携したチューター個別指導を課して、化学に対する苦手意識の克服に努めた。

**(3) 学生の自学自習を促す工夫**

A

「機器分析学・同実習」や「環境計量分析学実習」の実習科目では、実習に対する学生の理解度向上および円滑な実習の実施のため、当日の実習内容をフローチャートにして実験ノートに記入させた。

**(4) 学生とのコミュニケーション**

A

前年度に引き続き、学生からの質問には速やかに回答するよう努めた。

**(5) 双方向授業への工夫**

A

「環境計量学同演習」では、学生との対話を通じた双方向授業を取り入れた。

**(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）**

該当なし

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

これまでの授業評価では、授業スライドが見やすいなど、概ね、好意的な意見・コメントが多かった。今年度もこれまでの授業方法を踏襲し、授業では教科書は用いずにオリジナルの授業スライドの作成を行った。これらの授業スライドでは、学生が授業の内容をイメージしやすいよう、文章による説明ではなく、図やイラストを多くするよう工夫し、授業の要点をおさえるような内容とした。また学生が、事前に学習準備ができるよう、授業の資料・教材は、授業2日前までに必ずLMSにアップロードした。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

化学や分析化学、機器分析学・同実習では、「説明が丁寧でわかりやすく、実習に取り組みやすかった」、「授業前に丁寧な説明があった点が良かった」等、概ね評価の高い意見・コメントを受けることができた。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

今年度の授業評価は、概ね評価の高い意見・コメントを受けることができたため、次年度も引き続き、分かりやすく、きめ細かな授業を実施していく。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

1年次の「化学」では中間試験を行い、基準点に到達しなかった学生には、教育推進センターと連携したチューター個別指導を課して、化学に対する苦手意識の克服に努めた。

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からは、授業評価アンケートのコメントで、評価の高い意見・コメントを受けることができた。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

本学で実施したFD関係の研究・講習にはほぼ全て参加し、指導力向上に努めた。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

今年度は、概ね評価の高いコメントを受けることができたため、次年度も継続して、分かりやすい授業を行う事を目指す。また長期的には、担当する化学系科目の知識や手法を生物系・社会系の科目にも活用できるよう、他分野の科目にも関連した内容を盛り込み、学科として有機的に連動した科目体系としていくことを目指していきたい。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス, 小テスト, 試験問題, 授業配布資料, 授業評価データ